

いの流水俳壇

「当季雑詠」

刈谷 志津選

特選

山間の静かに明けて桐の花

川村 博子

〔評〕山里の朝の静けさと、桐の花との取り合わせがとてよくマッチして、余情を感じる。静かに流れていく山里の朝の時間帯、大好きで何度か遠出して見に行った桐の花。この句に出合えて嬉しい。

ふる里は遠し八十八夜かな

小野川町子

〔評〕夏も近づくと八十八夜とは、立春から数えて八十八日目、五月一日〜二日ごろにあたり、茶摘みに最適とされている。ふと思いついた。室生犀星の「ふるさと」は遠きにありて思ふもの」の詩が頭をよぎり、年ごとに遠くなる故郷。共感を覚え郷愁を誘う。

山内に気品ただよう山法師

森岡 照月

〔評〕寺の境内に咲く山法師の花。白色で気高さの匂う花。名前、風情共に山寺にあるのがふさわしい。楚楚として一度見ると心に残る。中七の表現で花の様子もよく見え、すがすがしい感じがする。

入選

花衣想い出たたみ仕舞い置く

有安ひで子

〔評〕花見に着た晴れ着を思い出と共にたたみ込み仕舞う。感性が豊かで女性ならではの句。

母の日や娘二人の声きけぬ

田蔭てい子

〔評〕母の日、いとおい二人の娘の「お母さんあり

がとう」の声が聞けなかった。娘を待つ母の寂しさが伝わってくる。

山陰を一際明かし著我の花

竹崎たかひろ

〔評〕山裾の陰の一叢に著我の花明りが見える。陰を明るくし、際立つ花となった。

兄弟の記録五月の柱傷

大川 節弥

〔評〕柱の傷跡は兄弟で競った五月五日の背比べ。成長の証として今も残り、なつかしい。

新緑をきりきり彼方竹とんぼ

津田 久美

〔評〕竹とんぼが舞いながら遠くへ飛んでいく。省略が効いていて新鮮な表現。

佳作

夏立ちぬ港の空へ可動橋

岡村 嘉夫

かずら橋旅人怯む青嵐
おかつぱに薫風はらみ笑顔行く
友の顔香りに浮かぶ新茶かな

活字追うまぶた重きや新茶飲む
薫風の視界に消えた飛行雲

草引きの手を休むれば陽の高し
屋形船川風誘う夏料理

武具飾り子は正眼に構えたり
卯の花やダム満水に風渡る

百の鯉緑の風をほしほいまま
響き合う生徒吹奏若葉燃ゆ

仁淀ブルー流れに揚げし鯉幟

次題「当季雑詠」 締切/毎月5日

投句先 教育委員会事務局

いの町1700-1

0893-1922

こども川柳年間優秀作品

けんかしてごめんなさいで いいきもち

川内小 2年 山本 結愛

〔評〕何事によらず、悪かったと気付いたときに「ごめんなさい」と素直に言えることがどれだけ大切なことであるのか、大人になるほどよく分かる。ごめんなさいと言ったときの気持ちよさを川柳に読んでいる小学2年生に大人が教えられる。今の気持ちを大切に育ってほしいと願うばかり。

おかあさんおこってばかりしわふえる

伊野南小 5年 川江 晃弘

〔評〕どこのお母さんにもこんなときがあります。お母さんもおこった後は反省しているでしょう。どこのお母さんも、いつもやさしいお母さんでいたいと思っています。

日本一キラキラひかる 仁淀川

枝川小 5年 北川 輝

毎日 努力を示す 一本道

枝川小 5年 井上茉莉香

入学式 桜がいつしよに お祝いだ

枝川小 5年 依岡 結花

春がきて みんなの心 ポツカポツカ

川内小 6年 川村 浩美

おかあさんいつもにこにこ ありがとう

枝川小 2年 中平 愛理

クリスマス 何が来るかな プレゼント

長沢小 6年 山中 侑弥

初日の出 だれよりはやく 朝おきて

枝川小 5年 北川 輝

6年生 一日一日 全力で

枝川小 6年 川上 萌依

「こども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。次回提出締め切りは7月11日(月)です。皆さんのたくさんの応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通じてお願いします。)

※選評は、川柳連会の皆さんにお願いしています。

有料広告

(医)慶誠会 高岡内科

院長 高岡和子

いの町新町86 TEL 088-892-0296

禁煙治療も行っています

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:30	○	○	☆	☆	○	○
午後 2:00~6:00	○	○	○	△	○	△

日曜、祝日、木曜と土曜の午後休診

診察医師 ○高岡誠人、高岡和子
☆高岡和子